

ラグビーのポジションと役割 #2ボックス



ラグビーは1チーム15人で行うスポーツ。大きい人、小さい人、力持ち、俊足等、多種多様な特徴を持つ選手が集まっています。今回はパスやキック、ランなどを駆使し、ボールを前に進めていく「ボックス」の7人について紹介します。

背番号1から8の「フォワード」については「[ラグビーのポジションと役割 #1フォワード](#)」をご覧ください。

「ボックス」は背番号9から15までの7人。主な仕事はキック、パス、ランなどで陣地を取ること。フィールドを走り回るスピード型のポジションです。

スタンドオフ (背番号10)

ボックスの司令塔。セットプレーや密集などから出たボールはスタンドオフに集められ、攻撃の起点となります。常に冷静な判断が求められ、キックやパスなど、様々なスキルを器用にこなす能力が必要です。

センター (背番号12,13)

ボックスの中で一番接触が多いポジション。大柄な選手が多く、走力も必要なタフなポジションです。縁の下の力持ち的存在ですが、「これぞラグビー！」というプレーが多く、ファンも多いです。

ウイング (背番号11,14)

チームのトライゲッター。バックスラインの一番外側でパスを受け取り、フィールド上を駆け回ります。足の速さ（特に瞬発力）が求められ、味方につないだボールをトライに結びつけることが仕事です。

フルバック (背番号15)

チームの最後尾で試合全体を見渡し、自陣を守ります。相手からのキックを蹴り返し、陣地を回復したり、ディフェンスラインを突破してきた選手を止める、最後の砦としての役割を担います。皆さんご存知の五郎丸 歩選手もこのポジションです。

スクラムハーフ (背番号9)

ラグビーの試合を観戦すると、各チーム一人ずつ、他より体の小さい選手が出場していると思います。この選手が背番号9、スクラムハーフ。セットプレーや密集から出たボールを捌き、攻撃の起点となります。すべての密集に駆けつけ、テンポよくボールを捌くため、とても体力の必要なポジションです。

この選手は相手に掴まれないために、一般的に体が小さい方が有利とされています。



以上、いかがでしたでしょうか。ラグビーには体の大きい人、小さい人、足の速い人、背の高い人など、様々な人が活躍できるポジションがあることがわかっていただけたと思います。

誰でも活躍できるポジションがある。それが「紳士のスポーツ」と呼ばれる所以の一つなのかもしれません。